

長崎外国語大学
2014 年度
学生意識調査
報告書

文責：学部運営会議

代表：外国語学部長

小鳥居伸介

2015 年 3 月

目 次

2014 年度学生意識調査分析結果の概要

I 学生生活について

- ①学生生活一般（設問 1～39）
- ②ライブラリー関係（設問 40～44）
- ③キャリア関係（設問 44～48）

II 学習について（設問 49～51）

自由回答

意識調査用紙

意識調査集計データ

2014 年度学生意識調査の分析結果概要

2014 年度学生意識調査の結果の解釈についての注意点

2014 年度の学生意識調査は 2013 年度以前の学生意識調査とは実施対象、実施時期、設問内容が異なり、また、2013 年度以前の学生意識調査と質問内容・選択肢が同一である、あるいは同等であると思われる設問についても、2013 年度以前は選択肢 1 つのみ選択可であったものが、選択肢 2 つまで選択可になっているものもあり、2014 年度のデータを 2013 年度以前のデータと直接比較することはできない。以下に特に注意すべき点について述べる。

実施対象について：

2013 年度以前の学生意識調査は 4 月の春学期オリエンテーション期間に行われており、新入生以外の学生を調査対象としていたため、1 年生の学生は秋学期入学の第 2 学期生（おもに留学生）のみとなっていて、所属学年をたずねる設問の選択肢に「大学 1 年生」が加えられた 2010 年度以来、全回答者に占める 1 年生の割合は最大 7.8%（2010 年度）～最小 2.0%（2013 年度）で全体のごく一部であったため、学年別の分析では従来は 2 年生以上を対象としてきたが、2014 年度の学生意識調査は春学期末の 7 月に行われ、新入生を含む全学生が対象となっているため、全回答者に占める 1 年生の割合が 22.8%となっており、2013 年度までの学生意識調査とは大きく異なっている。

実施時期と調査結果の関係について：

2013 年度以前の学生意識調査は 4 月の春学期オリエンテーション期間に行われており、調査結果は調査が行われた年度ではなく、その前の年度における学生の経験を基にしたものであったが、2014 年度の学生意識調査は春学期末の 7 月に行われたため、前年度だけでなく、調査の行われた年度における学生の経験をも反映したものになっている。特に、4 月入学の 1 年生については、調査の行われた年度での 1 学期間の経験のみを反映したものである。

複数回答可の設問の結果、パーセンテージの解釈、無回答者の問題について：

2013 年度以前の学生意識調査では、各設問とも解答は選択肢 1 つだけを選ぶ方式になっていたため、各選択肢の回答数合計はその設問の解答者数と一致したが、2014 年度の学生意識調査では複数の選択肢を選ぶことができる設問が 9 問（「I 学生生活について」（設問 1～48）では 7 問）あり、2013 年度以前の学生意識調査と同一またはほぼ同等の質問内容・選択肢の設問であっても、2013 年度以前の調査結果のデータと 2014 年度の調査結果のデータを直接比較することはできない。特にパーセンテージで与えられている調査結果の解釈には注意を要する。以下に理由を説明する。

前述の通り、2013 年度以前の学生意識調査では、各設問とも解答は選択肢 1 つだけを選ぶ方式になっていたため、各選択肢の回答数を全回答数で割った割合は、無回答者以外の調査参加者

のうちの何パーセントが各選択肢を選んだのかを表していたが、2014年度の学生意識調査では複数回答が可能な設問が設けられたため、各選択肢の回答数を全回答数で割った値はかならずしも無回答者以外の調査参加者のうちの何パーセントが各選択肢を選んだのかを表すわけではない。たとえば、調査参加者数を400とし、選択肢1と選択肢2を400名全員が選び、他の選択肢を選んだ回答者がいなかったとする。その場合、選択肢1回答数400、選択肢2回答数400で、全回答数800となり、選択肢それぞれの回答数を全回答数で割ることになるので、全員が選択肢1と選択肢2を選んでいるにもかかわらず、選択肢1の割合が50.0%、選択肢2の割合が50.0%となる。一方で、調査参加者400名のうち200名が選択肢1を選び、その他の選択肢を選ばず、他の200名が選択肢2を選び、他の選択肢を選ばなかったとすると、選択肢1回答数200、選択肢2回答数200で、全回答数400となり、この場合もパーセンテージでは、選択肢1の割合が50.0%、選択肢2の割合が50.0%となるが、この場合は調査参加者の半数ずつがそれぞれ選択肢1または選択肢2を選んだのであって、上述の最初の例とは状況が異なる。調査参加者400名のうち全員が選択肢1を選び、そのうち200名が選択肢2をも選んだ場合、選択肢1回答数400、選択肢2回答数200で、全回答数600となり、この場合はパーセンテージでは、選択肢1の割合66.7%、選択肢2の割合が33.3%となるが、これは調査参加の2/3が選択肢1を選び、1/3が選択肢2を選んだのではない。このように、従来の各選択肢の回答数を全回答数で割ってパーセンテージを求める計算方法では、調査に参加した回答者のうちどのくらいの割合が各選択肢を選んだのかがわからないという問題が生じている。過去の調査結果のデータと比較するためには、分母を全回答数ではなく、調査参加者数（有効回答を返すことが可能であった人数）または調査参加者数から無回答者数を減じた1つ以上の有効回答を返した調査参加者数にする必要がある。

この問題と関連しているのが、無回答者の取り扱いの問題である。2013年度以前の学生意識調査では、選択肢のいずれか1つだけを選ぶように指示されていたので、比較的無回答者は少なく、各選択肢の回答数を全回答数で割った値は、各選択肢の回答数を調査参加者数で割った値とほぼ同じであった。このため無回答者数を把握する必要性はあまりなかったが、2014年度の学生意識調査で複数回答可の設問が設定されたため、無回答者数の把握がより重要な意味を持つようになった。2014年度の学生意識調査の複数選択可の設問の指示には「複数選択可：最も適当と思われるものを2つまで選択」と書かれており、かならず2つ選択するようには指示されていないため、1つしか解答しない回答者が多数あった。（調査結果データでは各設問の無回答者数が不明であるため、何名の調査参加者があったのかは確定できないが、少なくとも設問1に対する回答数が373であるので、複数選択可の設問では、全員が2つの選択肢を回答したならば746の回答数があるはずだが、複数選択可の設問5の全回答数は505であるので、回答者の1/3程度が1つしか選択肢を選ばなかったことが推測できる。）上述の通り、複数回答可の設問の各選択肢の回答数を全回答数で割った値にはあまり意味がない。複数回答可の設問については、各選択肢の回答数を調査参加者数あるいは1つ以上の有効回答を返した調査参加者数で割る必要がある。調査参加者数については、単数回答の設問での無回答者の数が把握できれば、[その設問での全回答数+無回答者数]で調査参加者数を確定できる。また、複数選択可の設問で1つ以上の

有効回答を返した調査参加者数については、複数選択可の設問での無回答者数を把握することができれば、[調査参加者数－当該設問での無回答者数] でその設問において1つ以上の有効回答を返した調査参加者数を求めることができる。これにより、各選択肢を選んだ回答者数の調査参加者数に対する割合と、各選択肢を選んだ回答者数の1つ以上の有効回答を返した調査参加者数に対する割合を計算することができる。よって、各設問について、次回以降の調査では無回答者数を把握することが重要であると考ええる。

以上の通り、2014年度学生意識調査の結果のデータは、実施対象者・実施時期の違いから、2013年度以前の学生意識調査の結果のデータと直接比較できるものではないこと、そして、複数回答可の設問におけるパーセンテージ・データは各選択肢の回答数を全回答数で割った値であり、調査参加者数で割った値ではないという点に注意して、以下のデータの分析をお読みいただきたい。

I 学生生活について（設問 1～48）

【設問 1～3】回答者の男女別、学年別、日本人学生・留学生別内訳

回答者についての質問（設問 1、2、3）では、2005 年度以降、学年別回答者数を調べているが、2012 年度からは留学生と日本人学生の回答者数も調べている。2014 年度の調査では、設問 1 に対する全回答数は 373 人で、無回答者がいた可能性はあるが、おそらくこれが調査参加者数であると推測される。全回答者数は 2013 年度の 295 人より 26.4%（78 人）増加している。2013 年度までは調査時期が 4 月の春学期オリエンテーション期間中であり、4 月入学の新生が調査対象とはなっていなかったのに対し、2014 年度では調査時期が春学期末の 7 月で、4 月入学の第 1 学期生も調査対象となっているため、回答者数が大幅に増えている。2014 年度では、全体の 15.3%（57 人）が留学生であり、2012 年度の 21.3%（55 人）、2013 年度の 27.5%（81 人）よりも割合が小さくなっている。これは 4 月入学の第 1 学期生が調査対象となり、日本人学生がその多くを占めるため、相対的に留学生の割合が小さくなったことも大きく影響しているが、実数的にも 2013 年度と比較すると留学生は 24 名減少し、2012 年度の実数とほぼ同じになっている。

学年別・男女別の回答者数を見ると、大学 1 年生は、2012 年度（14 人）、2013 年度（6 人）はすべて留学生（秋学期入学生）であったが、2014 年度は調査が 7 月に実施され、春学期入学生が対象者に含まれるため、回答者数が 85 人で、76 人が日本人学生、9 人が留学生である。

大学 2 年生は回答者数が 117 人で、2012 年度の 120 人、2013 年の 121 人とほぼ同数であるが、2012 年度では大学 2 年生の 32.5%（39 人）が留学生であったのに対し、2013 年度では 8.3%（10 人）、2014 年度でも 12.0%（14 人）しか留学生がいなかった。

大学 3 年生は回答者数が 81 人で、2012 年度の 55 人よりは多いが、2013 年度の 96 人よりは減少している。2012 年度では、大学 3 年生の 7.3%（4 人）が留学生で、大学 3 年生女子は 0%（0 人）、男子は 14.8%（4 人）が留学生であったが、2013 年度では大学 3 年生の 46.9%（45 人）、大学 3 年生女子の 41.3%（26 人）、男子の 57.6%（19 人）が留学生で、大学 3 年生の留学生回答者は 2012 年度に比べて実数で 10 倍以上になっていた。2014 年度では大学 3 年生の 19.8%（16 人）、大学 3 年生女子の 18.6%（8 人）、男子の 19.4%（7 人）が留学生で、割合・実数ともに 2013 年度より留学生が減少している。一方で、大学 3 年生の日本人学生は、2012 年度、2013 年度ともに 55 人で実数には変化がなかったが 2014 年度は 65 人で 18.2%（10 人）増加している。よって、大学 3 年生の回答者数の減少は留学生の回答者の減少によるものである。

大学 4 年生は回答者数が 89 人で、2012 年度の 69 人、2013 年の 70 人よりも 3 割ほど増加している。2012 年度では、大学 4 年生の 2.9%（2 人）が留学生で、大学 4 年生女子は 2.3%（1 人）、男子は 4.0%（1 人）が留学生であったのに対し、2013 年度では大学 4 年生の 25.7%（18 人）、大学 4 年生女子の 25.0%（10 人）、男子の 26.7%（8 人）が留学生で、大学 4 年生の留学生回答者は割合、実数ともに 8 倍から 9 倍増加していた。2014 年度では大学 4 年生の 19.1%（17 人）が留学生で、大学 4 年生女子は 16.3%（8 人）、男子は 22.5%（9 人）が留学生であった。2013 年度と比較して、留学生の割合がやや小さくなっているが、実数では 2013 年度とほぼ同数である。一方で、日本人学生は、2012 年度では大学 4 年生の 97.1%（67 人）、大学 4 年生女子の 97.7%（43

人)、男子の 96.0% (24 人) であったのに対し、2013 年度では大学 4 年生の 74.3% (52 人)、大学 4 年生女子の 75.0% (30 人)、男子の 73.3% (22 人) で、大学 4 年生の日本人学生は、割合、実数ともに 2012 年度の 3/4 程度になっていた。2014 年度では、日本人学生は大学 4 年生の 80.9% (72 人)、大学 4 年生女子の 83.7% (41 人)、男子の 77.5% (31 人) であり、2013 年度と比較して女子、男子ともに増加し、学年では 38.5% (20 人) 増加して、2012 年度とほぼ同数になっている。

上記の通り、2014 年度の留学生の割合・実数は、2013 年度と比較すると、大学 2 年生で割合、実数ともほぼ同じであり、大学 3 年生では割合、実数ともに減少し、大学 4 年生では割合はやや減少しているが、実数はほぼ同数である。日本人学生の割合・実数は、大学 2 年生では割合、実数ともに 2013 年度と同様であり、大学 3 年生では割合・実数ともに増加し、大学 4 年生では割合、実数ともに増加している。大学 1 年生では、留学生の割合が 10.6%で実数が 85 人中の 9 人であるため、大学 1 年生については、日本人学生と留学生を分けて回答結果の分析をすることは困難と考えられる。

大学 3 年生は大学 2 年生、大学 4 年生に比べて回答者数が少ない傾向がある。2013 年度では、大学 3 年生回答者数が大学 4 年生回答者数を上回っていたが、これは大学 3 年生に留学生が多くいたためで、日本人学生の回答者数だけを見ると、大学 3 年生の回答者数は大学 4 年生の回答者数よりも少なかった。2014 年度では再び大学 4 年生の回答者数が大学 3 年生の回答者数よりも大きくなった。2 年次秋学期から留学中の学生がいないことが理由の一つと考えられる。一方で、留学生は 3 年次の編転入生の数が 1 年次入学生、2 年次転入生の数よりも多い傾向があるが、2014 年度では、大学 3 年生 (16 人)、大学 4 年生 (17 人) の回答者数は大学 1 年生 (9 人)、大学 2 年生 (14 人) の回答者数よりは多いものの、以前のような大きな実数の差は見られなくなっている。

2010 年度から 2013 年度までは前年度秋学期に入学した 1 年生 (4 月時点で第 2 学期生) を分けて集計していた。学生の学年所属は調査時に在学何学期目であるかによって判定している。2013 年度までは、回答者自身が、自分が何年生かを判断して回答していたため、特に秋学期入学生については、学年分けを間違えて解答した学生がいる可能性があったが、2014 年度の設定では、現在入学後何学期目であるかをたずねているため、誤った回答をする回答者は少なかったと思われる。2014 年度は調査時期が春学期末の 7 月になり、春学期入学の第 1 学期生も調査対象となったため、1 年生の回答者数は 2013 年度の 6 人に対して 2014 年度は 85 人となっており、14 倍以上に増加している。2013 年度までは 1 年生の実数があまりにも少数であったため、学年別の分析は 2 年生以上の回答結果について行ってきたが、2014 年度では 1 年生の回答結果についても学年別の分析が可能であると思われる。

男女別については、女子 61.9%、男子 38.1%で、例年の女子 6 割男子 4 割程度の比率と大きな差はないが、女子の割合が過去最大であった 2013 年度の女子 64.2%、男子 35.8 と比較すると、女子の割合が少し小さくなっている。

設問1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1 日本人学生											78.7%	72.5%	84.7%
2 留学生											21.3%	27.5%	15.3%
回答数											258	295	373

設問1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？																	
	2014年度	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	全体日本人	全体留学生
1 日本人学生	84.7%	89.5%	80.0%	89.4%	94.8%	77.8%	88.0%	90.8%	83.8%	80.2%	81.4%	80.6%	80.9%	83.7%	77.5%	100.0%	0.0%
2 留学生	15.3%	11.5%	20.0%	10.6%	5.2%	22.2%	12.0%	9.2%	16.2%	19.8%	18.6%	19.4%	19.1%	16.3%	22.5%	0.0%	100.0%
回答数	373	226	140	85	58	27	117	76	37	81	43	36	89	49	40	316	57

設問2. あなたは現在、大学何年生ですか？														
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
1 大学2年生				34.3%	39.5%	37.9%	28.7%	37.3%	40.7%	35.0%	46.5%	41.3%	31.5%	
2 大学3年生				31.0%	21.3%	27.7%	29.8%	14.0%	29.5%	28.2%	21.3%	32.8%	21.8%	
3 大学4年生				34.6%	39.2%	34.4%	41.5%	48.6%	22.0%	32.6%	26.7%	23.9%	23.9%	
4 大学1年生									7.8%	4.2%	5.4%	2.0%	22.8%	

設問3. あなたの性別は？														
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
1 女性	60.7%	61.1%	62.4%	57.5%	50.3%	55.2%	57.4%	61.1%	62.7%	57.7%	57.1%	64.2%	61.9%	
2 男性	39.3%	38.9%	37.6%	42.5%	49.7%	44.8%	42.6%	38.9%	37.3%	42.4%	42.9%	35.8%	38.1%	

【設問4】大学生活について

「あなたは大学生活に満足していますか？（設問4）」では、2014年度は「1）満足」、「2）まあまあ満足」が合わせて56.2%になっている。過去12年間では2002年度から2007年度までは年ごとに高くなる傾向があった。2007年度の52.6%のあと、2008年度は50.6%、2009年度は48.5%で、値がやや下がったが、2010年度はこれまででもっとも高い値の57.5%になった。2011年度はやや下がって54.7%、2012年度はさらに大きく下がって45.8%、2013年度は少し上がって52.2%であった。2010年度と2011年度はこれまででもっとも高い値であったが、2012年度は45.8%で2006年度の水準まで下がり、2013年度は52.2%で2007年度の水準となっていたが、2014年度は2013年度よりも高くなり、2011年度の値を超え、2010年度の57.5%に次いで2番目に高い値になっている。また、「4）あまり満足していない」、「5）満足していない」は合わせて12.9%で、2010年度の9.9%、2011年度の11.9%よりもやや高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)または(2)と回答した者の値は、大学1年生がもっとも高く、次いで大学4年生、大学2年生、大学3年生の順となっている。大学1年生では女子よりも男子の方がかなり高い値を示し、70%を超えている。大学2年生、大学3年生、大学4年生では女子の方が男子よりも高い値を示し、大学4年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値を示している。

日本人学生と留学生の比較では、(1)または(2)と回答した者の値は、日本人学生が54.4%、留学生が67.3%で日本人学生よりも留学生の方がかなり高い値を示している。

設問4. あなたは大学生活に満足していますか？														
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
1 満足	6.7%	11.7%	7.2%	12.8%	13.2%	20.7%	18.9%	18.5%	23.5%	19.0%	16.7%	16.3%	18.4%	
2 まあまあ満足	26.7%	27.1%	28.1%	28.1%	35.1%	31.9%	31.7%	30.0%	34.0%	35.7%	29.1%	35.9%	37.8%	
3 普通	42.2%	32.8%	43.1%	44.1%	33.2%	34.3%	30.2%	35.4%	32.5%	33.3%	35.7%	33.6%	30.8%	
4 あまり満足していない	16.3%	21.1%	15.7%	10.4%	14.1%	10.4%	12.8%	12.1%	5.7%	8.3%	12.4%	10.5%	7.8%	
5 満足していない	8.1%	7.3%	5.9%	4.6%	4.4%	2.8%	6.4%	4.0%	4.2%	3.6%	6.2%	3.7%	5.1%	

設問4. あなたは大学生活に満足していますか？																	
	2014年度	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	全体日本人	全体留学生
1 満足	18.4%	16.1%	21.4%	18.9%	15.5%	25.9%	19.0%	15.8%	24.3%	13.9%	16.7%	6.3%	21.6%	16.7%	27.5%	17.1%	25.5%
2 まあまあ満足	37.8%	42.9%	30.7%	45.9%	46.6%	44.4%	34.5%	40.8%	24.3%	35.4%	35.7%	36.1%	36.4%	47.9%	22.5%	37.3%	41.6%
3 普通	30.8%	29.5%	32.9%	22.4%	25.9%	14.8%	34.5%	35.5%	32.4%	36.7%	35.7%	38.9%	28.4%	18.6%	40.0%	31.6%	25.5%
4 あまり満足していない	7.8%	9.5%	7.1%	9.4%	8.6%	11.1%	7.8%	7.9%	8.1%	7.6%	7.1%	8.3%	6.8%	10.4%	2.5%	8.2%	5.5%
5 満足していない	5.1%	3.1%	7.9%	3.5%	3.4%	3.7%	4.3%	0.0%	10.8%	6.3%	4.8%	6.3%	6.8%	6.3%	7.5%	5.7%	1.8%
回答数	370	224	140	85	58	27	116	76	37	79	42	36	88	48	40	316	55

【設問5~6】悩みについて

「学生生活の中で一番困っていることは何ですか？（設問5）」（選択肢2つまで回答可）は2012年度、2013

年度の学生意識調査の設問9、2011年度以前の学生意識調査の設問8に相当する設問であるが、2014年度の学生意識調査では、選択肢5「大学の授業が面白くない」が「大学の授業に興味を持ってない」に変更され、新たに選択肢6「大学の授業についていけない」が加えられ、2013年度以前の選択肢6、選択肢7はそれぞれ2014年度の選択肢7、選択肢8となっている。また、2014年度では、選択肢2つまで回答可となっており、各選択肢のパーセンテージは全回答数に対する割合であって、調査参加者数に対する割合ではないので、2013年度以前のパーセンテージとは表すものが異なっている。(かりに調査参加者数が設問1の全回答数の373であったとすると、設問5の全回答数が505であるので、調査参加者数に対する各選択肢の回答数の割合は、報告されているパーセンテージのおよそ1.35倍になると推測される。)

2014年度の調査結果では「2)将来の見通しがたたない」が30.9%、「7)経済的な問題」が28.5%で、これら2つの回答が他の回答よりも際立って高い値を示している。これらの回答は2002年度以来、継続して1位と2位の回答であるが、2010年度までは年度ごとに高まる傾向があった。(2)については2011年に年度にこれまででもっとも高い値の47.6%を示したが2012年度では大幅に下がってこれまででもっとも低い値の34.5%になり、2013年度では再び上がって40.4%であった。(7)は2010年度にこれまででもっとも高い値の22.1%であったが、2011年度にはこれまででもっとも低い値の15.8%になり、2012年度では再びやや高くなって18.2%、2013年度では再び下がって2011年度に次いで2番目に低い値の16.1%を示した。2014年度では複数回答可となり、パーセンテージは全回答数に対する割合であって調査参加者数に対する割合ではないので、2013年度以前のデータと直接比較することはできないが、(2)は30.9%、(7)が28.5%でほぼ同じ値であり、(5)が3番目に高い値の14.1%を示している。全回答数は調査参加者数より大きいので、2014年度では(2)の値が2013年度以前より格段に小さいのは理解できるが、2014年度では分母が大きくなっているにもかかわらず、(7)と(5)の値が2013年度以前と比較して大きくなっている。特に(7)の値は極めて大きくなっており、2013年度までの調査では、(2)と(7)の選択でいずれか一方を選ばなくてはならず、(2)を選んだ結果、(7)を回答できなかった学生が多数いたことが推測される。

「8)特になし」は、2012年度には2005年度の19.5%に次いで、2007年度と同率のこれまでで2番目の高い値を示したが、2013年度にはやや下がって15.8%となっていた。2014年度ではわずか2%となっており、全回答数に対する割合であることを考慮しても(8)を選択した回答者が激減し、ほとんどの回答者が(8)を選ばなかったことは間違いない。(8)の回答数が激減したのは、実際に問題をかかえていない学生数が激減したためであるという可能性もあるが、設問のしかたによるバイアスの結果である可能性もある。設問では選択肢2つまで回答可としている一方で、(8)を選ぶと(1)～(7)のいずれの選択肢をも選べなくなってしまうため、2つ回答しようとした(あるいは2つ回答しなくてはならないものと解釈した)回答者は自動的に(8)を選ぶことができなくなったことが原因である可能性がある。

(2)と(7)の回答結果より、現在の生活に金銭的な余裕がなく、特に就職がどうなるのかについて不安を感じている学生が学生の4割近く(=(2)および(7)のパーセンテージの1.35倍)であることが窺える。また「5)大学の授業に興味を持ってない」は14.1%で、過去最高の2003年度11.7%よりも高く、学生の2割近く(=(5)のパーセンテージの1.35倍)が積極的に大学での学修に臨むことができないものと推測される。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については大学1年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値を示しているが、大学2年生、大学3年生では女子と男子の差は小さく、大学4年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示している。大学1年生の時点では女子よりも男子の方が楽観的であったのが、大学4年生では就職が難しいことがわかり、女子よりも男子の方が就職を心配するようになってきていることを示しているようである。(7)については、全体では女子よりも男子の方がやや高い値を示しており、大学2年生、大学3年生では女子よりも男子の値がはるかに高いが、大学4年生では逆転して、女子の値が男子の値よりもはるかに高くなっている。学年進行にともなって単位取得が進み、時間的に余裕ができたためにアルバイト等である程度の収入を得られることから、4年生は比較的値が低くなるのが予測されるが、大学4年生女子は予測に反してかなりの割合の学生が経済的に苦しい状況にあるようである。大学4年生女子において(7)の値が高いという結果は以前から見られているが、原因がはっきりしない。男子学生よりも積極的に他の都府県に行って就職活動をするために、旅費等で出費が多い、あるいは男子学生よりも就職の内定がすぐにはもらえず、就職活動が長引くために旅費が増え、かつ、就職活動に時間を取られるため、アルバイトができないなどの事情が原因かもしれない。(5)については、全体では女子と男子はほぼ同じ値を示しているが、学年によって状況は異なる。大学1年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示し、大学2年生、大学3年生では女子と男子がほぼ同じ値を示し、大学4年生では女子の方が男子よりもの方がかなり高い値を示している。学年での比較では、大学1年生が一番低い値を示し、大学2年生、大学3年生が大学1年生よりもかなり高い値を示し、大学4年生は大学2年生、大学3年生よりもやや低い値を示している。大学1年目の大学1年生女子は(5)の回答が少ないが、同じ1年目でも大学1年生男子は大学2年生男子、大学3年生男子とほぼ同じ値を示している。大学4年生女子の値が高くなり、大学4年生男子の値が低くなるのは、7月調査時点で授業に出てきていて調査に参加した女子学生は、授業に不満を持っていて単位を多く取り残していた学生が多い一方で、男子学生で同様に授業に不満を持っていて単位を多く取り残していた者は授業に出てこなくなっていて、調査に参加しなかったため、(5)の回答が大学1年生男子、大学2年生男子、大学3年生男子よりも少なくなっている可能性がある。

日本人学生と留学生の比較では、日本人学生、留学生ともに、(2)が1位、(7)が2位、(5)が3位であった。(2)と(5)は日本人学生と留学生でほぼ同じ値を示したが、(7)は日本人学生よりも留学生の方がやや低い値を示した。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1 友人関係がうまくいかない	6.0%	49.0%	2.0%	2.5%	3.5%	47.0%	2.7%	5.1%	4.5%	6.4%	5.0%	4.5%	3.2%
2 将来の見通しがたかない	41.8%	38.9%	42.4%	37.9%	40.9%	39.9%	46.0%	44.1%	42.9%	47.6%	34.5%	40.4%	30.9%
3 やりたいことが自由にできない	9.0%	6.1%	6.6%	4.7%	4.4%	2.4%	4.6%	6.7%	5.7%	7.3%	7.8%	8.2%	9.9%
4 やりたいことがない	7.5%	6.9%	4.6%	4.9%	5.7%	6.3%	1.5%	5.4%	3.3%	5.2%	7.0%	5.8%	7.5%
5 大学の授業に興味を持ってない（2013年度以前は「大学の授業が面白くない」）	9.7%	11.7%	10.5%	12.1%	7.9%	9.1%	8.7%	7.7%	9.1%	6.7%	9.7%	9.2%	14.1%
6 大学の授業についていけない													4.0%
7 経済的な問題	16.4%	18.6%	17.8%	18.4%	20.4%	19.8%	20.5%	21.9%	22.1%	15.8%	18.2%	16.1%	28.5%
8 特になし	9.7%	13.0%	16.1%	19.5%	17.3%	17.8%	16.0%	9.1%	12.4%	11.2%	17.8%	15.8%	2.0%

	2014全体	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	全体日本人	全体留学生
1 友人関係がうまくいかない	8.2%	3.8%	2.2%	4.2%	5.1%	2.5%	1.2%	1.9%	0.0%	3.7%	3.2%	4.5%	4.3%	6.3%	2.0%	3.0%	3.9%
2 将来の見通しがたかない	30.9%	31.6%	30.3%	28.0%	34.6%	15.0%	31.5%	33.0%	32.0%	30.0%	37.1%	38.6%	26.1%	20.3%	33.3%	30.9%	31.6%
3 やりたいことが自由にできない	9.9%	9.4%	10.3%	8.5%	9.0%	7.5%	8.0%	6.6%	8.0%	12.0%	14.5%	9.1%	12.2%	3.4%	15.7%	9.1%	14.5%
4 やりたいことがない	7.5%	8.1%	7.0%	6.8%	6.4%	7.5%	8.6%	11.3%	4.0%	4.6%	6.5%	2.3%	9.6%	6.3%	13.7%	7.4%	7.3%
5 大学の授業に興味がない（2013年度以前は「大学の授業が面白くない」）	14.1%	13.5%	14.6%	8.5%	9.8%	17.5%	17.3%	17.8%	16.0%	17.6%	16.1%	18.2%	12.2%	15.6%	7.8%	14.2%	13.2%
6 大学の授業についていけない	4.0%	3.5%	4.3%	5.9%	6.4%	5.0%	1.9%	0.9%	2.0%	7.4%	8.1%	6.8%	1.7%	0.0%	3.9%	4.0%	3.9%
7 経済的な問題	28.5%	27.4%	30.8%	35.6%	30.8%	45.0%	29.0%	25.5%	39.0%	14.8%	12.9%	18.2%	33.0%	40.6%	23.5%	29.3%	23.7%
8 特になし	2.0%	2.6%	0.5%	2.5%	3.8%	0.0%	2.5%	2.8%	0.0%	1.9%	1.6%	2.3%	0.9%	1.6%	0.0%	2.1%	1.3%
回答数	505	310	195	118	78	40	162	106	50	108	62	44	115	64	51	430	76

【設問6】「現在抱えている悩みや不安は何ですか？」

「現在抱えている悩みや不安は何ですか？（設問6）」（選択肢2つまで回答可）は、2012年度、2013年度の学生意識調査の設問10、2011年度以前の学生意識調査の設問9に相当する設問であるが、2014年度の学生意識調査では、選択肢10「その他」が加えられ、自由記述できるようになっている。（ただし、「10）その他」を選択した回答者はいなかった。）また、2014年度では、選択肢2つまで回答可となっており、各選択肢のパーセンテージは全回答数に対する割合であって、調査参加者数に対する割合ではないので、2013年度以前のパーセンテージとは表すものが異なっている。（かりに調査参加者数が設問1の全回答数の373であったとすると、設問6の全回答数が515であるので、調査参加者数に対する各選択肢の回答数の割合は、報告されているパーセンテージのおよそ1.38倍になると推測される。）

2014年度の調査結果では、設問9の回答と似て、「1）これからの進路について」が35.9%で1位、「3）勉学上のこと」が23.3%で2位「5）金銭上のこと」が9.7%で3位となっている。（1）については2011年度の58.6%から2012年度では45.0%となり、かなり低くなったが、2013年度では再び53.1%まで高くなった。2014年度では35.9%であり、調査参加者数に対する割合はこの値のおよそ1.38倍であるので49.5%相当であると推測されるが、それでも2002年度、2012年度に次いで3番目に低い値と推定される。（5）と（3）については、2007年度から2010年度まで（5）の方が（3）よりも高い値を示していたが、2011年度では（3）の方が高い値を示した。2012年度では再び（5）の方が高くなったが、2013年度では（3）の方が高くなっていた。2014年度では（3）が（5）よりもはるかに高い値を示しており、32.2%（＝23.3%の1.38倍）相当の回答者が勉学上で悩み、不安をかかえていることが推測でき、過去のいずれの年度のデータと比較してもはるかに高い値になっている。（5）は13.8%（9.7%の1.38倍）相当の値を示しており、2009年度、2010年度、2012年度ほどではないが、2013年度の11.0%よりも高い値であると推測される。過去の調査結果と比較して、進路について悩み、不安をかかえる学生の割合がやや小さくなった一方で、勉学上の悩み、不安をかかえる学生の割合が非常に大きくなっている。

学年・男女別の回答内訳では、（1）については2011年度、2012年度、2013年度と同様に2014年度でも、学年ごとに値が高くなる傾向がある。男女間の比較では、大学1年生と大学2年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値を示しているが、大学3年生では女子と男子の差が小さくなり、大学4年生では女子と男子の差はわずかである。女子では大学1年生よりも大学2年生がかなり高い値を示しているが、大学2年生、大学3年生、大学4年生の値の差はわずかであり、学年進行とともに、女子と男子の値の差が小さくなるのは男子の値が大学1年生から大学4年生にかけて次第に大きくなるためである。大学4年生では女子、男子ともに少なくとも4割以上の学生が進路について悩み、不安をかかえている。

（3）については、2010年度、2011年度、2012年度、2013年度では学年進行とともに値が低くなっていたが、

2014年度では、大学1年生と大学3年生がほぼ同じ値でもっとも高く、大学2年生と大学4年生が大学1年生、大学3年生よりもはるかに低い値を示している。男女間の比較では、学年によって状況が異なり、大学1年生と大学3年生では女子の方が男子よりもやや高い値を示しているが、大学2年生と大学4年生では女子よりも男子の方が高い値を示し、大学2年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示している。2013年度以前の調査で、学年進行とともに値が小さくなっていったのは、かならずしも勉学上での悩みや不安を持っている者が学年進行とともに減っていたわけではなく、一つの選択肢しか選べなかったため、(1)の進路の選択肢を選ぶ学生が学年とともに増える分、(3)を選択する学生が減っていたものと思われる。2014年度では複数の選択肢を選ぶことができるようになったため、4年次末まで1学期あまりを残した7月時点で、卒業単位を秋学期中に取得できるかどうか不安になっている4年生が(3)を選んだために、4年生の値が高くなったものと考えられる。

(5)については、2014年度では大学1年生がもっとも高い値を示し、大学2年生と大学4年生が大学1年生よりもやや低い値で、大学3年生がもっとも低い値を示している。また、男女間の比較では、学年によって状況が異なり、大学1年生と大学2年生では女子よりも男子の方がかなり高い値を示しているが、大学3年生と大学4年生では女子の方が男子よりもやや高い値を示している。

「7)いじめにあっている」は2014年度では、すべての学年が0.0%ではなく、どの学年にもいじめにあっている学生がいたようである。大学1年生女子、大学2年生女子、大学2年生男子、大学3年生男子、大学4年生女子が0.0%ではなく、これらのグループに(7)を回答した学生がいることがわかる。(2009年度では大学3年生男子のみ、2010年度では大学2年生の女子および男子、2011年度では大学2年生男子、大学3年生女子、大学4年生男子、2012年度では大学2年生女子、大学3年生の女子および男子、大学4年生男子、2013年度では大学4年生の女子および男子が0.0%でなかった。)

日本人学生と留学生の比較では、日本人学生、留学生ともに(1)が1位、(3)が2位、(5)が3位であった。(1)は日本人学生の方が留学生よりもやや高い値を示したが、(3)は日本人学生の方が留学生よりもやや低い値を示した。(5)の値は日本人学生と留学生でほぼ同じ値を示した。

設問6. 現在抱えている悩みや不安は何ですか？ (2012年度、2013年度は設問10、2011年度以前は設問9)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1 これからの進路について	44.4%	55.7%	61.2%	60.0%	59.2%	63.7%	59.8%	54.7%	53.3%	58.6%	45.0%	53.1%	35.9%
2 健康上のこと	2.3%	2.0%	3.3%	2.7%	2.8%	4.0%	5.4%	3.7%	4.8%	4.5%	4.7%	4.5%	3.9%
3 勉学上のこと	21.8%	17.5%	13.8%	14.0%	15.7%	10.4%	13.9%	14.5%	14.2%	14.2%	14.3%	15.2%	23.3%
4 自分の性格のこと	6.0%	3.3%	3.9%	2.5%	4.7%	2.4%	1.9%	3.7%	1.8%	3.9%	4.3%	3.1%	5.8%
5 金銭上のこと	12.0%	8.5%	8.2%	7.9%	8.2%	10.8%	10.0%	15.5%	15.2%	10.0%	15.9%	11.0%	9.7%
6 友人関係	3.0%	2.4%	1.0%	1.1%	1.3%	1.2%	0.4%	1.7%	0.9%	0.9%	1.2%	0.7%	2.9%
7 いじめにあっている	1.5%	1.2%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%	0.9%	0.9%	1.2%	1.6%	0.7%	1.0%
8 生活環境	1.5%	4.5%	2.0%	3.0%	1.9%	0.4%	1.9%	1.0%	2.4%	1.5%	1.8%	2.4%	4.5%
9 特になし	7.5%	4.9%	6.6%	8.2%	5.6%	7.2%	6.2%	4.7%	6.4%	5.1%	11.6%	9.3%	13.0%
10 その他													0.0%

設問6. 現在抱えている悩みや不安は何ですか？ (2012年度、2013年度は設問10、2011年度以前は設問9)

	2014全体	2014女子	2014男子	14全体	14女子	14男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	全体日本人	全体留学生
1 これからの進路について	35.9%	39.5%	30.6%	27.2%	31.4%	17.9%	34.6%	41.5%	22.0%	41.3%	44.8%	38.8%	41.9%	42.0%	41.7%	37.1%	29.9%
2 健康上のこと	3.9%	3.4%	4.3%	2.4%	2.3%	2.6%	4.9%	5.7%	2.0%	4.6%	1.7%	8.2%	3.4%	2.9%	4.2%	3.2%	7.8%
3 勉学上のこと	23.3%	22.3%	25.3%	32.0%	33.7%	28.2%	19.1%	15.1%	28.0%	28.4%	29.3%	26.5%	15.4%	19.0%	18.8%	22.6%	27.3%
4 自分の性格のこと	5.8%	6.9%	4.3%	4.0%	4.7%	2.6%	10.5%	12.3%	8.0%	2.8%	1.7%	4.1%	4.3%	5.8%	2.1%	6.2%	3.9%
5 金銭上のこと	9.7%	9.4%	10.8%	13.6%	10.5%	20.5%	9.9%	8.5%	14.0%	4.6%	6.9%	2.0%	10.3%	11.6%	8.3%	9.8%	9.1%
6 友人関係	2.9%	2.8%	3.2%	3.2%	3.5%	2.6%	2.5%	1.9%	4.0%	3.7%	1.7%	6.1%	2.6%	4.3%	0.0%	3.2%	1.3%
7 いじめにあっている	1.0%	0.9%	1.1%	0.8%	1.2%	0.0%	1.2%	0.9%	2.0%	0.9%	0.0%	2.0%	0.9%	1.4%	0.0%	0.7%	2.6%
8 生活環境	4.5%	3.8%	5.4%	3.2%	3.5%	2.6%	4.9%	3.8%	6.0%	4.6%	5.2%	4.1%	5.1%	2.9%	8.3%	4.8%	2.6%
9 特になし	13.0%	11.0%	15.1%	13.6%	9.3%	23.1%	12.3%	10.4%	14.0%	9.2%	8.6%	8.2%	16.2%	15.9%	16.7%	12.5%	15.6%
10 その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	515	319	196	125	86	39	162	106	50	109	58	49	117	69	48	439	77

【設問7】

「悩みがあったら誰に相談しますか？」で、「アドバイザーの教員」と答えたのは学生全体の 3.1% (17 人) であった。その多くが 1 年次と 2 年次の学生である。ほとんどの学生が家族 26.3% (145 人)、もしくは友人 49.5% (273 人) と、より身近な人間を挙げている。その一方で、「個人的な悩みを相談する人がいない (4 人)」「相談しない (57 人)」と答えた学生が合計で 11%にのぼっている。学内において退学者数の引き下げに取り組む際は、このような学生と適切にコンタクトを取れるようにすることが課題となるだろう。

【設問 8】

「学内のカウンセリングルームについて」で、「行ったことがある」と答えたのは学生全体のわずか 7.3% (27 人) に留まっている。内 12 人が 2 年次の学生である。「行ってみたいと思ったことがある」と答えたのが 21.1% (78 人) となっており、カウンセリングルームの必要性を示している。

【設問 9】

設問 8 で「行かない」と答えた学生が 54.1% (200 人) と半数を超えている。その内、何らかの理由によって行かないと答えた学生の割合が 31.2% (71 人) となっていることは問題である。「行かない理由」の内訳は、「カウンセリングがどういうものかよくわからない 16.9% (39 人)」、「他人に知られたくない 6.9% (16 人)」、「場所が悪い 3.5% (8 人)」、「時間帯が悪い 3.5% (8 人)」となっている。

【設問 10】

「アドバイザーにはどういう相談をしたいですか」の全体の回答は、「学業に関すること 27.4% (122 人)」、「卒業後の進路相談 42.6% (190 人)」、「個人的な悩み 9.6% (43 人)」となっている。2 年次以降には「卒業後の進路相談」をしたいと答えた学生が急増している。2 年次以降のアドバイザー担当教員とキャリア支援課の連携は不可欠であろう。

【設問 11】

「アドバイザーとのコンタクトは取りやすいですか」では、「取りやすい 56.8% (210 人)」、「やや取りづらい 24.3% (90 人)」、「取りづらい 18.9% (70 人)」であった。(回答欄に誤りがある。「取りづらい」の項目が 3 番目に書かれているが、番号は「4」となっている。4 番目に書かれている項目はない。ここでは、「3」と「4」を合わせた数を「取りづらい」と回答した数とする) 1 年次では「取りやすい」が 69.5%と高い比率になっている。これは必修科目として基礎演習があることが理由として考えられる。

【設問 12】

設問 11 で「取りづらい」「やや取りづらい」と答えた学生にその理由を尋ねたところ、「アドバイザーが研究室にいない 14.1% (25 人)」、「研究室がどこか分からない 13.6% (24 人)」、「コンタクトの取り方がわからない 52.5% (93 人)」、「その他 19.8% (35 人)」となった。「コンタクトの取り方がわからない」は、1 年次か

ら4年次まで数値が高くなっている。オリエンテーションでは、アドバイザーの紹介だけでなく、コンタクトを取るための手段を伝える必要があると思われる。

【自由記述（設問12）】

「① 空いている時間が合わない」、「② 常に忙しそう」、「③ 知らない」、「④ アドバイザーの性格がコミュニケーションを取りづらい」との記述があった。2013年頃は、アドバイザー制度そのものについての問題が指摘されていたが、今年度は①と②のような教員個人への意見が書かれている。

【設問13】

「あなたはアドバイザーとどの程度話をしていますか」では、「① 頻繁に話をしている 8.5% (31人)」、「② 時々話をしている 24.5% (89人)」、「③ 相談事があるときだけ話をしている 19.8% (72人)」、「④ 授業以外では全く話をしない 28.8% (105人)」、「⑤ 全く話したことがない 18.4% (67人)」となっている。2013年との比較では、望ましいと思われる回答①～③と、問題であると思われる回答④、⑤の間に顕著な差は見られない。学年別の傾向としては、3年次が最もアドバイザーとコンタクトを取らない時期であることが分かる。3年次では、④、⑤と答えた学生が合わせて68.3%と、他の学年を20ポイント以上上回っている。最もアドバイザーとコンタクトを取るのが4年次である。4年次では、④、⑤と答えた学生が合わせて29.6%となっており、なんらかの相談をアドバイザーにしているということが分かる。

日本人学生と留学生を比較すると、留学生の方がよりアドバイザーとのコンタクトを取っていることが分かる。日本人学生では、ほとんどコンタクトを取っていないと解釈できる④、⑤が51.6% (159人)であるのに対し、留学生では22.8% (13人)という結果になっている。

【設問14】

「今までにアドバイザーと全く話をしたことがない人だけ教えてください」では、「① 時間が合わないなどの理由で、機会を逃してしまう 12.7% (16人)」、「② 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない 19.8% (25人)」、「③ 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない 9.5% (12人)」、「④ 特に話す必要がない 36.5% (46人)」、「⑤ アドバイザーが誰か知らない 21.4% (27人)」であった。2013年度と比較すると、①と答えた学生が約10ポイント減少、②と答えた学生が5.4ポイント減少、③はほぼ同じ、④が7.8ポイント減少している。概ね良好な推移であると評価できる。2014年度に回答に加えた⑤だが、⑤と答えた学生は、2年次と3年次に多くみられた。

【設問15】「あなたはたばこを吸いますか？」

「1) はい」が13.8% (51名)で、「2) いいえ」が86.2% (318名)であった。特に喫煙者に注目して学年・男女別の回答内訳についてみると、「1) はい」と回答した1年生は6.0% (5名：女子3名、男子2名)、2年生は7.0% (8名：女子2名、男子5名、1名不明)、3年生は23.5% (19名：女子4名、男子14名、1名不明)、4年生は21.6% (19名：女子5名、男子14名)であった。日本人学生全体では、「1) はい」が12.5% (39

名)で、留学生全体では21.1%(12名)と、留学生の喫煙者の割合が高い傾向にある。学年が上がることに喫煙者の割合が高くなっていることから、成人をきっかけに喫煙を開始しているようである。しかし、喫煙をする女子学生の数はほとんど増加していないので、効果的な喫煙対策によって、喫煙習慣を大学在学中に身に付けさせないことも可能であろう。喫煙による健康被害は広く認められることを考えると、他大学で実施されているような喫煙対策を今後、本学でも検討する必要がある。

【設問 16】「本学の喫煙場所についてどう思いますか？」

「1)このままでいいと思う」が71.9%で最も高いが、「2)屋内禁煙にすべき」(12.2%)と「3)学内全面禁煙にすべき」(12.4%)の合計も24.6%と高い割合になっている。「4)屋内禁煙時間を設けるべき」は2.2%、「5)他の場所に移動したほうがよい」は1.4%である。自由記述欄には、「喫煙場所を2階のテラスに戻してほしい」、「2階の喫煙場所付近の教室に煙が入ってくるため、外がよい」という意見があげられた。2013年度の調査でも、喫煙場所に対する要望として、「喫煙所が少ない」、「207 教室の横の喫煙所を撤去してほしい。臭いや煙が充満している」という意見が出されていた。「2)屋内禁煙にすべき」と「3)学内全面禁煙にすべき」と回答している学生の割合も高いことから、他大学で実施されている喫煙対策を参考にしながら、喫煙場所の移動や屋内禁止等を検討すべきである。

また、本学の喫煙場所は学生のみならず教職員も利用しているので、喫煙場所の利用状況を調査する必要がある。いずれにしても、設問 15 で指摘したように、将来、健康被害を及ぼす恐れのある喫煙習慣を、本学在学中に学生が身に付けるのを防ぐために、教職員は率先して模範的な態度を示すことが望まれる。

【設問 20】「一日の授業が終わった後、何をすることが一番多いですか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1 すぐに帰宅する	164	45.2%	141	45.8%	23	41.1%
2 友だちと会う	63	17.4%	51	16.6%	12	21.4%
3 サークル活動を行う	15	4.1%	14	4.5%	1	1.8%
4 学内で自習する	27	7.4%	22	7.1%	6	10.7%
5 アルバイト	94	25.9%	80	26.0%	14	25.0%
回答合計	363	100.0%	308	100.0%	56	100.0%

全体的にみた場合、「すぐに帰宅する」が45.2%で一番多く、次いで、「アルバイト」の25.9%、「友だちと会う」の17.4%となっていた。「学内で自習する」は、7.1%、「サークル活動を行う」は4.1%と低い値になっていた。日本人学生と留学生を比較すると、どの項目もあまり差はなかった。しかしその中でも、「サークル活動を行う」という項目が、日本人学生4.5%に対し、留学生は、1.8%であり、留学生がサークル活動にあまり参加していない状況がうかがえる。

【設問 21】「授業がある時間以外は、学内のどこで過ごすことが多いですか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1. 学食	15	4.1%	11	3.6%	4	7.3%
2. コミュニティラウンジ	113	31.2%	99	32.1%	14	25.5%
3. ライブラリー	125	34.5%	114	37.0%	11	20.0%
4. クラブハウス	8	2.2%	7	2.3%	2	3.6%
5. 空き教室	43	11.9%	28	9.1%	15	27.3%
6. テラス	4	1.1%	3	1.0%	1	1.8%
7. CoSTaスペース	10	2.8%	10	3.2%	0	0.0%
8. 屋外	44	12.2%	36	11.7%	8	14.5%
回答合計	362	100.0%	308	100.0%	55	100.0%

全体的にみた場合、「ライブラリー」が34.5%と最も多く、次いで、「コミュニティラウンジ」31.2%、「屋外」12.2%、「空き教室」11.9%となっていた。「学食（4.1%）」、「CoSTa スペース（2.8%）」、「クラブハウス（2.2%）」、「テラス（1.1%）」は、低い値となっていた。

これらの結果から、学生が、ライブラリーやコミュニティラウンジを授業時間以外に過ごす場所として活用していることがわかった。

日本人学生と留学生を比較すると、大きな違いがあったのは、「空き教室」と「CoSTa スペース」の利用についてであった。「空き教室」に関しては、日本人学生 9.1%に対し、留学生 27.3%であり、留学生が「空き教室」を活用していることが考えられる。しかし、「CoSTa スペース」については、日本人学生 3.2%、留学生 0%であり、日本人学生についても低い値であり、他の場所に比べて、あまり活用していないが、アンケートに回答した留学生は、全く CoSTa スペースで過ごしていないということがわかった。

【設問 22】「週にどのくらいアルバイトをしていますか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1. 授業後毎日	15	4.0%	13	4.1%	2	3.5%
2. 授業後週に3、4日	145	39.0%	120	38.0%	25	43.9%
3. 週末のみ	40	10.8%	34	10.8%	7	12.3%
4. 夜間のみ毎日	4	1.1%	3	0.9%	1	1.8%
5. 夜間のみ3、4日	25	6.7%	16	5.1%	9	15.8%
6. 夜間のみ1、2日	11	3.0%	11	3.5%	0	0.0%
7. していない	132	35.5%	119	37.7%	13	22.8%
回答合計	372	100.0%	316	100.0%	57	100.0%

全体的にみると、一番多かったのは、「授業後週に3、4日」の39.0%であり、次いで、「していない」の35.5%であった。その他は、「週末のみ」10.8%、「夜間のみ3、4日」6.7%、「授業後毎日」4.0%、「夜間のみ1、2日」3.0%、「夜間のみ毎日」1.1%であった。

日本人学生と留学生を比較すると、最も多かったのは、どちらも「授業後週に3、4日（日本人38.0%、留学生43.9%）」であった。しかし、アルバイトを「していない」という学生は、日本人37.7%に対して、留学生22.8%と差があり、留学生の方がアルバイトをしている学生の割合が多かった。

【設問 23】「現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1. ファーストフード店での販売	32	11.3%	18	7.9%	14	25.5%
2. ウェイトレス、ウェイター	65	23.0%	58	25.4%	7	12.7%
3. 夜間の飲食店(居酒屋、バー等を含む)	68	24.1%	59	25.9%	10	18.2%
4. コンビニエンスストア、スーパーやデパートでの販売	46	16.3%	31	13.6%	15	27.3%
5. 夜間のコンビニエンスストア	5	1.8%	2	0.9%	3	5.5%
6. その他の販売	30	10.6%	25	11.0%	5	9.1%
7. 家庭教師又は塾の講師	27	9.6%	26	11.4%	1	1.8%
8. 事務	3	1.1%	3	1.3%	0	0.0%
9. 工場や運送業での軽作業	6	2.1%	6	2.6%	0	0.0%
回答合計	282	100.0%	228	100.0%	55	100.0%

全体的にみると、「夜間の飲食店(居酒屋、バー等を含む)」が、24.1%でもっとも多く、次いで、「ウェイトレス、ウェイター」23.0%、「コンビニエンスストア、スーパーやデパートでの販売」16.3%、「ファーストフード店での販売」11.3%、「その他の販売」10.6%、「家庭教師又は塾の講師」9.6%となっていた。他の項目は、「工場や運送業での軽作業」2.1%、「夜間のコンビニエンスストア」1.8%、「事務」1.1%であった。全体的に接客業が上位を占めていた。

日本人学生と留学生を比較すると、「夜間の飲食店(居酒屋、バー等を含む)」「ウェイトレス、ウェイター」は、日本人学生(25.9%、25.4%)が、留学生(18.2%、12.7%)よりも多く、「コンビニエンスストア、スーパーやデパートでの販売」「ファーストフード店での販売」については、留学生(25.5%、27.3%)が、日本人学生(13.6%、7.9%)よりも多く従事していることがわかった。

【設問 24】「アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1. たびたびある	18	6.2%	12	5.0%	6	11.8%
2. 時々ある	60	20.5%	47	19.4%	13	25.5%
3. めったにない	59	20.2%	53	21.9%	7	13.7%
4. 一度もない	155	53.1%	130	53.7%	25	49.0%
回答合計	292	100.0%	242	100.0%	51	100.0%

全体的にみると、「一度もない」が53.1%で最も多く、次いで、「時々ある」20.5%、「めったにない」20.2%、「たびたびある」6.2%であった。「時々ある」と「たびたびある」を合わせると、26.7%となり、3割弱の学生は、アルバイトが原因で授業を休んでいることを示している。

日本人学生と留学生を比較すると、「たびたびある」「時々ある」の項目で日本人学生(5.0%、19.4%)よりも留学生(11.8%、25.5%)の方が多く、留学生の方がややアルバイトが原因で授業を休んでいる割合が多いことがうかがえる。

【設問 25】「学内の施設、またその使用方法について改善してほしいものがありますか？」

	大学全体	大学全体	日本人	日本人	留学生	留学生
1. ラウンジ	34	7.4%	27	6.9%	7	9.6%
2. 食堂	86	18.7%	63	16.2%	23	31.5%
3. トイレ	110	23.9%	103	26.5%	8	11.0%
4. ライブラリー	13	2.8%	12	3.1%	1	1.4%
5. メディアセンター	7	1.5%	5	1.3%	2	2.7%
6. 教室	3	0.7%	1	0.3%	2	2.7%
7. 売店	101	21.9%	88	22.6%	13	17.8%
8. 体育館	19	4.1%	15	3.9%	4	5.5%
9. バス	88	19.1%	75	19.3%	13	17.8%
10. CoStaスペース	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答合計	461	100.0%	389	100.0%	73	100.0%

その他

- ・エアコンを集中管理にするのではなく各教室で操作するほうがエコであり経済的

全体的にみると、最も多かったのは「トイレ」23.9%、次いで「売店」21.9%、バス「19.1%」、食堂「18.7%」となっている。また、合わせて設問 52 の自由記述をみてみると、売店・食堂、トイレ、バスの改善を求める記述が多数見られる。売店については、商品の品数、営業時間、価格についての改善要望が多い。トイレについては、臭い、広さ、入口、掃除後の濡れた状態についての改善希望の記述がみられる。バスについては、無料バスの増便や運転手さんの態度改善の要望がみられる。昨年度の調査結果を受けて、これまでも改善に向けての取り組みをしているが、今後も早急に対応できる部分の改善をして、対応の状況等を学生に知らせていくことが重要であると考えられる。

【設問 26】

睡眠時間に関して、平成 26 年 3 月に出版された厚生労働省健康局の『健康づくりのための睡眠指針 2014』(p. 8) は、個人差はあるものの、必要な睡眠時間は 6 時間以上 8 時間未満のあたりにあるのではないかという見解を示している。ここでは、「睡眠時間 6 時間未満=睡眠不足」を一つの基準として本学学生の睡眠時間を考えてみよう。

大学全体で見ると睡眠時間 6 時間未満の学生が 62.5%で、6 割近くの学生が十分な睡眠をとっていないことがわかる。学年別で見ると、1 年生 67.1%、2 年生 66.7%、3 年生 64.2%、4 年生 50.6%で、学年に関係なく十分な睡眠がとれていないようである(4 年生 50.6%が相対的に低くなっているのは、履修する授業の数とそれに要する予習・復習時間が関係していると思われる)。

日本人学生と留学生との比較で見ると、前者が 66.2%で後者が 43.0%で、その差が 20%以上もある。上述の睡眠指針は日本人を対象としたものであるが、留学生にも適用できるものと仮定すると、日本人学生、留学生とも十分な睡眠時間が確保されていない人が多く、特に、日本人学生にその傾向が顕著に現れていると言えよう。

個人差はあるものの、日本人学生より留学生の方が元気があるように感じている教職員も多いと思うが、疲れた表情で授業を受けている日本人学生を見ると、その背後には睡眠時間の問題が潜んでいるようである。

【設問 27】

厚生労働省が発表した『平成 24 年国民健康・栄養調査結果の概要』（2013 年 12 月）によると、調査当日（特定の 1 日）において朝食を欠食した人は男性で 12.8%・女性 9.0%に達している（p. 27）。ここでは、欠食を「4、5 日に 1 回程度食べる」、「殆ど食べない」を一つの基準として本学学生の欠食状況を考える。

大学全体で見ると欠食をする学生が 35.6%で、3 人に 1 人の学生が朝食を取っていないことがわかる。学年別で見ると 1 年生 24.7%、2 年生 41.0%、3 年生 34.6%、4 年生 40.0%で、学年に関係なく朝食を取らないで、大学生活を送っているようである。1 年次とそれ以降に関して 10%以上の差があるのは、2 年次以降、勉学が本格化し、それに要する予習・復習時間が相対的に増えるためだと思われる。

日本人学生と留学生との比較で見ると、前者が 36.6%で後者が 29.3%で、その差は 7%である。上述の睡眠時間に関する 20%以上の差と比較すると、この 7%は大した数字ではないが、学生全体で見た場合、日本人学生/留学生は十分に朝食を取らない人が多く、特に、日本人学生にその傾向が強いことは間違いないようである。

睡眠時間不足同様、朝食なしの生活スタイルは好ましくない。最近、特に、疲れて、無気力な学生が増えてきているようであるが、一日の活力源である朝食なしの状況がその原因の一つになっているようである。

【設問 28】

睡眠不足や朝食を取らない生活が続くと、健康を害する可能性が高くなる。ここでは、【設問 27】と【設問 28】の結果を踏まえながら、「あまり健康ではない」/「健康ではない」と回答した学生数で学生の健康状況をみていく。

大学全体で見ると「あまり健康ではない」/「健康ではない」と回答した学生数 17.6%である。この数字は決して低くなく、おおよそ 5 人に 1 人の割合で、健康上何らかの問題を抱えていることがわかる。

学年別で見ると 1 年生 16.5%、2 年生 19.9%、3 年生 21.0%、4 年生 13.5%で、特に、2 年、3 年次で健康上の問題が表面化する学生が多くなるようである。この理由の一つとして、大学における学業の中心が 2、3 年で、授業の予習・復習等による負担が増え、睡眠時間が不足することなどが挙げられよう。

日本人学生と留学生との比較で見ると、前者が 18.3%、後者が 14.0%で、その差は 4%程度である。上述の睡眠時間に関する 20%以上の差と比較するとこの 4%も大した数字ではないが、学生全体で見た場合、日本人学生/留学生ともに健康に不安を感じている学生は決して少なくなく、特に、日本人学生にその傾向が強いと言えよう。

【設問 29】

一般的に言って、掲示板を見ない学生が増えてきたと言われている。掲示板を見る頻度や見方等は、学生がおかれた状況によって変わってくるが、深刻な問題として受けとめないといけないことは、掲示板を見るという習慣や意識そのものがない学生がいるということである。「あまり見ない」/「殆どみない」と回答した数字を基に、掲示板を見るという習慣を見ていく。

大学全体で見ると「あまり見ない」/「殆ど見ない」と回答した学生数 16.3%である。この数字も決して低くなく、おおよそ 6 人に 1 人の割合で、掲示板を見るという大学生としての義務を果たしていない学生がいることを認識する必要があるだろう。

学年別で見ると 1 年生 15.3%、2 年生 16.3%、3 年生 13.6%、4 年生 34.8%で、特に、4 年次で掲示板を見ていない学生が結構いる。授業があまりなく、たまに大学にくる学生が多いため、このような結果になっているものと思われる。

日本人学生と留学生との比較で見ると、前者が 16.7%で後者が 13.8%で、顕著な差はないが、日本人学生が掲示板を見ていないケースが相対的に多いことは理解しておかなければならないだろう。

【設問 30】

掲示板同様、学生要覧を見ることは重要なことであるが、「まったく見ない」と回答している学生が多い。大学全体では、38.0%もの学生が学生要覧を見ることなしに大学生活を送っている現実には重く受けとめる必要があるだろう。学年別で見ると 1 年生 47.1%、2 年生 41.0%、3 年生 33.3%、4 年生 30.3%であるが、下級学年の学生ほど学生要覧を見ない傾向にあるようである。

日本人学生と留学生との比較で見ると、前者が 40.4%、後者が 24.1%で、顕著な差が出ている。何故このような差が出てきているか今後詳しく検討して行けなければならないが、特に、日本人学生に対して物事に対する基本的な取組に関する教育指導を充実させていく必要があるのではないだろうか。

全体のまとめ

睡眠、食事、情報収集などの基本的な生活習慣に対して、我々がどこまで指導できるか難しい面はあるが、今回の調査で、深刻な問題があることが数量的に理解できたことは良かったのではないだろうか。今後は、大学システム全体の中で解決方法を模索していかなければならない。

【設問 31】 主な経費支弁者（学費や生活費など修学に必要な資金を出している人）は誰ですか。（複数回答可：最も適当と思われるものを 2 つまで選択）

	選択肢	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	日本人学生	留学生
1	親	65.0%	64.8%	67.3%	64.6%	62.5%	65.5%	62.3%
2	親以外の保護者・親類	4.7%	2.8%	2.7%	6.1%	7.1%	2.7%	15.9%
3	自分自身(奨学金含む)	30.4%	32.4%	30.0%	29.3%	30.4%	31.8%	21.7%

全体（471 人）のうち、「親」が 65.0%で最も多く、「自分自身（奨学金含む）」が 30.4%と続き、「親以外の保護者・親類」が 4.7%となっている。日本人学生と留学生を比較すると、留学生は「自分自身（奨学金含む）」が 21.7%と日本人学生の 31.8%より低い。また留学生は「親以外の保護者・親類」が 15.9%、日本人学生は 2.7%であり、日本人学生より留学生の方が「親以外の保護者・親類」の経済的支援を受けている割合が多いことがわかる。

【設問 32】 経費支弁者からの資金のみで、修学可能ですか。

	選択肢	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	日本人学生	留学生
1	可能	51.1%	50.6%	49.6%	49.4%	56.2%	51.4%	48.2%
2	やや困難	37.5%	31.3%	40.0%	44.3%	32.6%	36.7%	42.9%
3	かなり困難	11.4%	18.1%	10.4%	6.3%	11.2%	11.8%	8.9%

全体（368人）のうち、「可能」が51.1%、「やや困難」が37.5%、「かなり困難」が11.4%の割合となり、およそ半数（48.9%）の学生が経費支弁者からの資金のみでの修学に困難を感じていることがわかる。学年別にみると、1年生の「かなり困難」の回答が18.1%と4学年のうち、最も高い割合を示している。

【設問33】 大学独自の奨学金（給付型）について、種類や申し込み方法などを

1) 十分理解している 2) もっとよく知りたい 3) 知る必要はない

	選択肢	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	日本人学生	留学生
1	十分理解している	32.8%	28.9%	40.2%	35.8%	23.6%	36.4%	14.0%
2	もっとよく知りたい	49.7%	61.4%	47.0%	43.2%	48.3%	45.6%	71.9%
3	知る必要はない	17.5%	9.6%	12.8%	21.0%	28.1%	18.0%	14.0%

全体（372人）のうち、「十分理解している」が32.8%、「もっとよく知りたい」が49.7%、「知る必要はない」が17.5%である。「十分理解している」の学年別の違いをみると、1年生は28.9%、2年生は40.2%、3年生は35.8%、4年生は23.8%であり、1年生が最も低い。一方で「もっとよく知りたい」の学年別の違いをみると、1年生は61.4%、2年生は47.0%、3年生は43.2%、4年生は48.3%であり、1年生が最も高い。1年生には奨学金に関する種類や申込に関する情報の理解している学生の割合が低く、もっとよく知りたい、理解を深めたいと思っている割合が多いことがわかる。留学生はさらに顕著であり、「もっとよく知りたい」の割合が71.9%である。したがって、1年生と留学生に向けて重点的に奨学金に関する情報提供や制度を詳しく知る機会を設けていくことが必要である。

【設問34】 外部団体（日本学生支援機構など）の奨学金（貸与型）について種類や申し込み方法などを 1) 十分理解している 2) もっとよく知りたい 3) 知る必要はない

	選択肢	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	日本人学生	留学生
1	十分理解している	38.1%	34.9%	41.9%	44.3%	31.5%	42.5%	12.5%
2	もっとよく知りたい	40.0%	51.8%	36.8%	35.4%	37.1%	34.0%	73.2%
3	知る必要はない	21.9%	13.3%	21.4%	20.3%	31.5%	23.5%	14.3%

全体
(370
人)の
うち、
「十
分に
理解

している」が38.1%、「もっとよく知りたい」が40.0%、「知る必要がない」は21.9%である。学年別の違いをみると、「十分理解している」の割合は1年生34.9%と4年生31.5%であり、2年生(41.9%)、3年生(44.3%)と比較すると1、4年生の割合が低い。一方「もっとよく知りたい」の割合は1年生が51.8%と最も高い。1年生にとっては奨学金を受給し始めたばかりで、返還等も含めて奨学金に関する理解を深めたいという学生が多いのではないかと推測される。また、留学生に関しては「もっとよく知りたい」が73.2%であり、留学生には十分に奨学金制度の詳細が伝わっていない学生が7割以上いることがわかる。設問33と同様に、留学生ならびに1年生を重点的に奨学金の情報提供や制度を理解する場を設けることが必要だと考えられる。

【設問35. 自由記述】

大学独自の奨学金について、大別すると以下の3点について要望があげられた。

- (1) 奨学金情報の周知徹底や受給資格の説明等、情報提供の徹底
- (2) 奨学金の多様化（無利息の奨学金や給与奨学金を増やす）や現在の奨学金の増額

(3) 特別奨学金特別支援奨学金の留学中の受給停止を改正

情報提供に関する要望が(1)であり、設問33で述べたように、説明会等の開催を通じて情報提供と奨学金制度の詳細を理解する機会を設けることが求められる。(2)と(3)は現行の奨学金制度への不満であり、制度の多様化や増額など制度の改正を通じて、奨学金制度をさらに充実させていくことが望まれる。また、「奨学金というのは、本当に金銭的にも厳しい人々が受けるものであるにも関わらず、親の所得を偽り受給している人もいた」との指摘があり、経済的受給基準の虚偽申請の改善を求める声もあげられた。

【設問 36~39】

学友会活動に関する「外語祭、スポーツ大会、課外活動などに積極的に参加していますか」の問に対し、全体では52.6%が「はい」、47.4%が「いいえ」と回答した。学友会活動には約半数の学生のみが積極的にコミットしている現状が窺える。男女間で有意な差は見られない。学年間で「はい」と答えた学生を比較すると、1年生55.6%、2年生59.1%、3年生32.9%、4年生59.1%であり、比較的数値の低い1年生は大学にまだ馴染みきっていないことが、3年生は留学等の影響が背景にあると思われる。注目すべきは日本人学生で「はい」と答えた学生が55.4%であるのに対し、留学生では37.0%に留まっている点である。日本人学生中心の学友会活動になっていると思われる。また全体としても(大学の規模に鑑みると)より多くの学生がこれに関わるようになるべきではあるまいか。最も「はい」の割合が高かった(66.7%)のは、2年生男子と4年生男子である。現在学友会に所属する男子学生は多いとは言えないが、この階層に積極的に関与してもらうことが活動活性化の一助となるのではあるまいか。

「いいえ」と答えた学生にその理由を問うた【設問 37】で僅かだが「楽しくない」という意見があることから、学友会主催イベントの内容を充実させる必要もあるだろう。

その具体的方策については【設問 38】への回答に示されており、年中行事にちなんだイベントを増やすべきだとする声が多かった。これは国際文化交流を念頭に置いたアイデアととらえられる。数多くの留学生が学ぶ本学の特性を活かせる建設的な意見であり、また教育的効果も見込めることから(【設問 37】には「学業と関係がないからイベントに参加しない」との声もあった)、大学側のサポート体制も一層充実させつつ、ぜひ積極的に取り組んでゆくべきであろう。ただしイベント回数の増加を望む学生は20.4%に留まっていることから、まずは既存のイベントにおいて内容の再検討を進める必要がある。

その他学友会に対する要望を問うた【設問 39】に対しては、学友会活動以外に対するものが多かったため、別途取り扱う。

II 学習について(設問 49～51)

ここからは、

<以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください。>として設問されている。

【設問 49】

あなたが授業科目を選択するとき、重視することは何ですか。(2つ以内)

- ①学問的な興味 ②課題の量の多少 ③単位の取りやすさ
- ④成績のつけ方(出席、試験、レポート等) ⑤時間割の都合
- ⑥将来の仕事の役に立つか ⑦授業のやり方、教え方

授業選択の際に重視することを2つ上げてもらう質問では、回答が多かったのは、大学全体では、(1)学問的な興味、(2)時間割の都合、(3)単位の取りやすさ、の順番であった。質問の仕方が若干異なるので一概には言えないかもしれないが、昨年度は、(1)学問的な興味、(2)時間割の都合、(3)授業のやり方・教え方、の順番であった。ちなみに、将来の仕事の役に立つか、が(4)番目となり、これは昨年度と変化していない。全体的な傾向に大きな変化は見られなかった。

学年別でみると、1年生全体は、(1)は学問的な興味、(2)時間割の都合、とここまでは大学全体と同じだが、(3)将来の仕事の役に立つか、となっている。1年生なりの将来展望かもしれない。また、興味深いのは、1年生の男女別で見ると、男子は、学問的な興味、将来の仕事に役立つか、に比較的數字が集まり、課題の多少、単位の取りやすさ、成績評価は低いのにに対し、女子は授業の成績に関する項目には敏感に反応しているといえる。男子の回答は<見栄>で、女子は<正直>なのだろうか。ただ、3年生では、全体の順位は変わらないが、男女別では、女子が、学問的な興味、将来の仕事に役立つか、を重視しているのに対し、男子はそうではなく、1年生の男女別回答とほぼ逆の状況を示している。

いずれにしても、回答の数字の上では、いぜんとして授業への関心は尽きていないことが判明した。授業を担当する教員側が、学生たちの興味や関心はどこにあるのかを見極めながら、これにどのように対応するのかについてもいぜんとして問われている。

【設問 50】

授業時間外で学修中に授業の内容で分からないところが出てきた場合には、どのように解決していますか。(主な理由を1つ選んでください)

- ①教員に直接質問する ②友人に質問して教えてもらう
- ③自分で調べる ④わからないままにしておく

ほぼ同じ主旨の昨年度の質問(授業で不明な点はどのように解決していますか)では、(1)友人、(2)教員、

(3) 自分、の順番であった。今年度もこの順番に変化はない。

誰かに聞いたり、自分で調べたりすることは、いずれにしても放置しないという点で特に問題視する必要はないと思われるが、わからないままにしておく学生が昨年度より若干増えている。1年生は、④の項目は0%ですが、2年生以上になるとこの項目が0%となることがない。特に2年生男子の数値が高いが、要因はよくわからない。ただ、③の項目も比較的高いことが若干の救いといえる。

授業担当者は、授業内のみならず、授業外での学修を促すことがこれからさらに求められるようになるが、その際学生たちは必然的に自学自修に立ち向かうことになる。わからないことが出てきた場合にはどうするかといった勉強の仕方も、授業で扱う項目として今まで以上に積極的に取り上げる必要がある。

※設問 50 の () 内「主な理由を」は不必要でした。訂正します。

設問 51

あなたが履修登録した授業に出席しなくなる理由は何ですか。(2つ以内)

- ①授業のレベル ②授業の雰囲気 ③体調不良
- ④アルバイト ⑤寝坊 ⑥特に理由なし
- ⑦欠席等せずにきちんと出席した

回答が多かった順番は、(1)寝坊、(2)体調不良、(3)授業の雰囲気

今年度は出席率をたずねていないので、昨年度 80%以上の出席率の学生が大学全体で 56%だった数字が、⑦欠席等せずにきちんと出席した、の 13.2%と比較できるのかできないのか難しい。昨年度と今年度で劇的に出席率が変化するとは考えられないので、学生たちは履修を止めるかどうしようか迷った科目あるいは止めてしまった科目を想定して回答(例えば、出席は芳しくなかったけれども、諦めずに何とか最後までたどり着いた)したのかもしれない。

1年生は1時限目に英語科目が入っているので、⑤寝坊、が欠席となる理由は察することができるが、2年生以上でも寝坊が理由の1番となっているのは、よほど夜更かししているということだろうか。また、1年生は⑦欠席等せずにきちんと出席した、の数字も他の学年と比べて数字は高くなっている。アンケートが春学期だったからだろうか。

①授業のレベルについては、その難易度の高低にかかわらず、年度ごとに減少しているようにみえる。特に語学科目は、プレイメントなどによるクラス編成を行っていることが功を奏してきていると言えるのだろうか。

昨年度と同じことになるのだが、「体調不良」や「朝寝坊」は睡眠不足や生活時間の乱れが主因となっているといえる。これから、さらに授業外の学修時間が強く求められるようになるので、規則正しい生活習慣をつけるためにも、大学生活の中心は授業であり、学習であるという意識をもたせることが必要であろう。

②授業の雰囲気や、特に⑥特に理由なし、についてはよくわからないところが多く、引き続き注視していきたい。

を体験していないからだろうと考えられ、「ほしい資料がない」と回答した1年生がいないことから裏付けられる。本がきれいな1年生がいないことは希望材料である。問41での1年生、4年生の、「本がきれい」回答がないことと、問40での利用頻度回答は、関連性があるだろう。

また、問40の回答同様に3年生男子の「必要がない」58.8%、「ほしい資料がない」5.9%は、学習のためにライブラリーを利用していないことが要因だと考えられる。現状では、本学ライブラリーに所蔵していない必要資料については、他館から借り受ける、学生からのリクエストとして購入する等の対応をとっているが、4年生女子の、ライブラリー利用に関して「必要がない」という回答者がいないことと、「ほしい資料がない」という回答者が75.0%もいることは、今後の資料収集の問題点として予算との兼ね合いもある中で検討していく。

留学生のライブラリーを利用しない理由に「学外の図書館を利用している」という回答が47.8%もあるのは、居住地の近くに図書館があるからか、資料の言語の問題であるか、研究する専門分野の問題であるか、今後の聞き取りや実施予定の利用者アンケート等を通して検証していく。

自由回答に「メディアセンターの自習室、図書館で騒いだり行儀が悪い人が目立つ。しかし、学生に学生が注意はしづらいので、学校側に注意してほしい。対策をしてほしい」と記されている問題に関しては、ライブラリー内の静寂を保つために、ライブラリーとコスタ・スペースとコミュニティラウンジの3箇所を用途に応じて使い分けることを学生に確認させ、注意しても静かにできない学生にはコスタ・スペース或いはコミュニティラウンジに行くように指示するカードシステムを教育研究メディアセンター委員会で検討する予定である。

【設問42】メディアセンターの自習室には満足していますか？

(分析)

回答者の約90%が、1)満足している、2)まあまあ満足していると回答しているので学生満足度は高いと思われる。

しかし、「自習室」とはICT教育支援室の隣の部屋でありPCも4台しか設置がなく、一日の利用者数も多くはない。

何故、自習室に関する質問があり、その一方学生が自習でPCを利用するコンピュータ教室(M201・M202)に関する質問がないのか疑問である。

3)満足していない。と回答した学生の意見で、「パソコンが遅い」との回答があるが、これは共有仕様のため現時点での改善は不可能。

「うるさい」とか「エアコンの設定温度」に関しては、巡回を増やし対応したい。

Ⅱ 学習について

ここからは、
<以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください。>として設問されている。

設問 49

あなたが授業科目を選択するとき、重視することは何ですか。（2つ以内）

- ①学問的な興味 ②課題の量の多少 ③単位の取りやすさ
④成績のつけ方（出席、試験、レポート等） ⑤時間割の都合
⑥将来の仕事の役に立つか ⑦授業のやり方、教え方

授業選択の際に重視することを2つ上げてもらう質問では、回答が多かったのは、大学全体では、(1)学問的な興味、(2)時間割の都合、(3)単位の取りやすさ、の順番であった。質問の仕方が若干異なるので一概には言えないかもしれないが、昨年度は、(1)学問的な興味、(2)時間割の都合、(3)授業のやり方・教え方、の順番であった。ちなみに、将来の仕事の役に立つか、が(4)番目となり、これは昨年度と変化していない。全体的な傾向に大きな変化は見られなかった。

学年別でみると、1年生全体は、(1)は学問的な興味、(2)時間割の都合、とここまでは大学全体と同じだが、(3)将来の仕事の役に立つか、となっている。1年生なりの将来展望かもしれない。また、興味深いのは、1年生の男女別で見ると、男子は、学問的な興味、将来の仕事に役立つか、に比較的數字が集まり、課題の多少、単位の取りやすさ、成績評価は低いのに対し、女子は授業の成績に関する項目には敏感に反応しているといえる。男子の回答は<見栄>で、女子は<正直>なのだろうか。ただ、3年生では、全体の順位は変わらないが、男女別では、女子が、学問的な興味、将来の仕事に役立つか、を重視しているのに対し、男子はそうではなく、1年生の男女別回答とほぼ逆の状況を示している。

いずれにしても、回答の数字の上では、いぜんとして授業への関心は尽きていないことが判明した。授業を担当する教員側が、学生たちの興味や関心はどこにあるのかを見極めながら、これにどのように対応するのかについてもいぜんとして問われている。

設問 50

授業時間外で学修中に授業の内容で分からないところが出てきた場合には、どのように解決していますか。（主な理由を1つ選んでください）

- ①教員に直接質問する ②友人に質問して教えてもらう
 ③自分で調べる ④わからないままにしておく

ほぼ同じ主旨の昨年度の質問（授業で不明な点はどのように解決していますか）では、(1)友人、(2)教員、(3)自分、の順番であった。今年度もこの順番に変化はない。

誰かに聞いたり、自分で調べたりすることは、いずれにしても放置しないという点で特に問題視する必要はないと思われるが、わからないままにしておく学生が昨年度より若干増えている。1年生は、④の項目は0%ですが、2年生以上になるとこの項目が0%となることがない。特に2年生男子の数値が高いが、要因はよくわからない。ただ、③の項目も比較的高いことが若干の救いといえる。

授業担当者は、授業内のみならず、授業外での学修を促すことがこれからさらに求められるようになるが、その際学生たちは必然的に自学自修に立ち向かうことになる。わからないことが出てきた場合にはどうするのかといった勉強の仕方も、授業で扱う項目として今まで以上に積極的に取り上げる必要がある。

※設問 50 の () 内「主な理由を」は不必要でした。訂正します。

設問 51

あなたが履修登録した授業に出席しなくなる理由は何ですか。（2つ以内）

- ①授業のレベル ②授業の雰囲気 ③体調不良
 ④アルバイト ⑤寝坊 ⑥特に理由なし
 ⑦欠席等せずきちんと出席した

回答が多かった順番は、(1)寝坊、(2)体調不良、(3)授業の雰囲気

今年度は出席率をたずねていないので、昨年度 80%以上の出席率の学生が大学全体で 56%だった数字が、⑦欠席等せずきちんと出席した、の 13.2%と比較できるのかできないのか難しい。昨年度と今年度で劇的に出席率が変化するとは考えられないので、学生たちは履修を止めるかどうしようか迷った科目あるいは止めてしまった科目を想定して回答（例えば、出席は芳しくなかったけれども、諦めずに何とか最後までたどり着いた）したのかもしれない。

1年生は1時限目に英語科目が入っているので、⑤寝坊、が欠席となる理由は察することができるが、2年生以上でも寝坊が理由の1番となっているのは、よほど夜更かししているということだろうか。また、1年生は⑦欠席等せずきちんと出席した、の数字も他の学年と比べて数字は高くなっている。アンケートが春学期だったからだろうか。

①授業のレベルについては、その難易度の高低にかかわらず、年度ごとに減少し

ているように見える。特に語学科目は、プレイスメントなどによるクラス編成を行っていることが功を奏してきていると言えるのだろうか。

昨年度と同じことになるのだが、「体調不良」や「朝寝坊」は睡眠不足や生活時間の乱れが主因となっているといえる。これから、さらに授業外の学修時間が強く求められるようになるので、規則正しい生活習慣をつけるためにも、大学生活の中心は授業であり、学習であるという意識をもたせることが必要であろう。

②授業の雰囲気や、特に⑥特に理由なし、についてはよくわからないところが多く、引き続き注視していきたい。

<文責：山川>

2014 学生意識調査 自由回答

*自由回答への対応につきましては、各委員会におきまして回答の内容を分析し、その結果を別途掲示等で順次公開させていただくこととします。

小鳥居学部長

本学学生の現状把握のため学生生活と学習に関する意識調査を行います。学生諸君のご協力をお願いします。

I. 学生生活について

各設問に対し選択肢の中から**最も適当と思われるものを一つ選び**、マークシートに記入して下さい。**複数回答可の質問は最も適当と思われるものを2つまで選択して下さい。**

1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？
 - 1) 日本人学生
 - 2) 留学生

2. あなたは現在、入学後何学期目ですか？
 - 1) 3学期目または4学期目[大学2年生]
 - 2) 5学期目または6学期目[大学3年生]
 - 3) 7学期目以降[大学4年生]
 - 4) 2学期目[大学1年生]

3. あなたの性別は何ですか？
 - 1) 女性
 - 2) 男性

4. あなたは大学生活に満足していますか？
 - 1) 満足している
 - 2) まあまあ満足している
 - 3) 普通
 - 4) あまり満足していない
 - 5) 満足していない

5. 学生生活の中で一番困っていることは何ですか？（**複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択**）
 - 1) 友人関係がうまくいかない
 - 2) 将来の見通しがたたない
 - 3) やりたいことが自由にできない
 - 4) やりたいことがない
 - 5) 大学の授業に興味をもてない
 - 6) 大学の授業についていけない
 - 7) 経済的な問題
 - 8) 特になし

6. 現在抱えている悩みや不安は何ですか？（**複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択**）
 - 1) これからの進路について
 - 2) 健康上のこと
 - 3) 勉学上のこと
 - 4) 自分の性格のこと
 - 5) 金銭上のこと
 - 6) 友人関係
 - 7) いじめにあっている
 - 8) 生活環境
 - 9) 特になし
 - 10) その他（ ）

7. 悩みがあったら誰に相談しますか？（**複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択**）
 - 1) 家族
 - 2) 友達
 - 3) 先輩
 - 4) アドバイザーの先生
 - 5) アドバイザー以外の先生
 - 6) カウンセラー
 - 7) 職員
 - 8) 個人的な悩みを相談する人がいない
 - 9) 相談しない

8. 学内のカウンセリングルームについて。
 - 1) 行ったことがある
 - 2) 行ってみたいと思ったことがある
 - 3) 存在を知らなかった
 - 4) 行かない

9. 8で「行かない」と答えた人は、行かない理由を選んで下さい。
 - 1) 必要がない
 - 2) 場所が悪い
 - 3) 時間帯が悪い
 - 4) 行っていることを他の人に知られたくない
 - 5) カウンセリングがどういうものか、よくわからない

10. アドバイザーにはどういう相談をしたいですか？（複数回答可）
 - 1) 学業に関すること
 - 2) 卒業後の進路の問題
 - 3) 個人的な悩み
 - 4) その他（ ）
 - 5) 特になし

11. アドバイザーとのコンタクトは取りやすいですか。
 - 1) 取りやすい
 - 2) やや取りづらい
 - 4) 取りづらい

12. 11で「取りづらい」「やや取りづらい」と答えた人は、どうしてコンタクトがとりづらいと思いますか。

- 1) アドバイザーが研究室にいない 2) 研究室がどこかわからない 3) コンタクトの取り方がわからない
4) その他 ()

1 3. あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか。

- 1) 頻繁に話をしている 2) 時々話をしている 3) 相談事があるときだけ話をしている
4) 授業以外では全く話をしない 5) 全く話したことがない

1 4. 今までにアドバイザーと全く話をしたことがない人だけ答えてください。

なぜ、今までアドバイザーと全く話をしたことがないのですか。

- 1) 時間が合わないなどの理由で、機会を逃してしまう 2) 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない
3) 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない 4) 特に話す必要がない
5) アドバイザーが誰か知らない

1 5. あなたはたばこを吸いますか？

- 1) はい 2) いいえ

1 6. 本学の喫煙場所についてどう思いますか？

- 1) このままでいいと思う 2) 屋内禁煙にすべき 3) 学内全面禁煙にすべき 4) 屋内禁煙時間を設けるべき
5) 他の場所に移動したほうがよい → どこですか。()

1 7. 通学時間はどのくらいですか？

- 1) 15分以内 2) 30分以内 3) 1時間以内 5) 1時間以上

1 8. 通学手段は次のうちどれですか？(複数回答可)

- 1) 徒歩 2) バス 3) JR 4) 路面電車 5) 自家用車 6) バイク 7) 自転車

1 9. 自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。

自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

- 1) 受けている 2) 知らなかったので受けていない 3) 知っていたが、許可は受けていない

2 0. 一日の授業が終わった後、何をすることが一番多いですか？

- 1) すぐに帰宅する 2) 友達と会う 3) サークル活動を行う 4) 学内で自習する 5) アルバイト

2 1. 授業がある時間以外は、学内のどこで過ごすことが多いですか。

- 1) 学食 2) コミュニティラウンジ 3) ライブラリー 4) クラブハウス 5) 空き教室 6) テラス
7) CoSta スペース 8) 屋外

2 2. 週にどのくらいアルバイトをしていますか？

- 1) 授業後毎日 2) 授業後週に3、4日 3) 週末のみ 4) 夜間のみ毎日 5) 夜間のみ3、4日
6) 夜間のみ1、2日 7) していない

2 3. 現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？(複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択)

- 1) ファーストフード店での販売 2) ウェイトレス、ウェイター 3) 夜間の飲食店(居酒屋、バー等を含む)
4) コンビニエンスストア、スーパーやデパートでの販売、レジ係 5) 夜間のコンビニエンスストア 6) その他の販売
7) 家庭教師又は塾の講師 8) 事務 9) 工場や運送業等での軽作業

2 4. アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？

- 1) たびたびある 2) 時々ある 3) めったにない 4) 一度もない

2 5. 学内の施設、またその使用方法について改善してほしいものがありますか？(複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択)

- 1) ラウンジ 2) 食堂 3) トイレ 4) ライブラリー 5) メディアセンター 6) 教室 7) 売店 8) 体育館
9) バス 10) CoSta スペース 11) その他 ()

※11) その他と答えた人は具体的に記入してください。

26. 平均でみた場合、一日（月～金で、週末は除く）の睡眠時間は大体どれぐらいですか。
1) 4時間未満 2) 4時間以上～5時間未満 3) 5時間以上～6時間未満 4) 6時間以上～7時間未満
5) 7時間以上～8時間未満 6) 8時間以上
27. 平日（月～金で、週末は除く）、朝食はどの程度とっていますか。
1) ほぼ毎日食べる 2) 2, 3日に1回程度食べる 3) 4, 5日に1回程度食べる 4) 殆ど食べない
28. 現在、身体面で健康な状態(勉学に支障のない程度)にあると思いますか。
1) 健康である 2) 概ね健康である 3) あまり健康ではない 4) 健康ではない
29. 掲示板について
1) 毎日くまなく見る 2) 毎日決まったところだけを見る 3) 学校に来たときには見る 4) 週に何度か見る
5) あまり見ない 6) ほとんど見ない
30. 学生要覧について
1) よく参考にする 2) 必要なときには参考にする 3) ときおり参考にする 4) まったく見ない
31. 主な経費支弁者（学費や生活費など修学に必要な資金を出している人）は誰ですか。**(複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択)**
1) 親 2) 親以外の保護者・親類 3) 自分自身(奨学金含む)
32. 経費支弁者からの資金のみで、修学可能ですか。
1) 可能 2) やや困難 3) かなり困難
33. 大学独自の奨学金（給付型）について、種類や申し込み方法などを
1) 十分理解している 2) もっとよく知りたい 3) 知る必要はない
34. 外部団体（日本学生支援機構など）の奨学金（貸与型）について種類や申し込み方法などを
1) 十分理解している 2) もっとよく知りたい 3) 知る必要はない
35. 大学独自の奨学金について意見・要望があったら、具体的に記述してください。
36. 学生の皆さんは全員、学友会の構成員です。外語祭、スポーツ大会、課外活動など積極的に参加していますか。
1) はい 2) いいえ
37. 36で「いいえ」と答えた人は、不参加の理由は何ですか。**(複数回答可：最も適当と思われるものを2つまで選択)**
1) 興味がない 2) 時間がない 3) 一緒に参加する友達がいない 4) 情報がない 5) 面倒くさい
6) その他 ()
38. 学友会執行委員会主催のイベントを増やしてほしいですか。具体的にどのようなイベントを開催してほしいですか。
1) はい(具体例:) 2) いいえ
39. 学友会の執行委員会へ、イベント以外に関する要望はありますか。あれば記入してください。
()
40. あなたはどの位の頻度でライブラリー（図書館）を利用していますか？
1) 毎日 2) 週に2, 3回程度 3) 週に1回程度 4) 月に1, 2回程度
5) 試験期間だけ 6) ほとんど利用していない 7) まだ一度も利用したことがない
41. 40. で「ほとんど利用していない」「まだ一度も利用したことがない」と答えた人は、利用しない理由を教えてください。選択肢にない場合は、「その他」に具体的に記入してください。
1) 必要がない 2) 学外の図書館を利用している 3) ほしい資料がない 4) 本がきらい

5) その他 ()

4 2. メディアセンターの自習室には満足していますか？

1) 満足している 2) まあまあ満足している 3) 満足していない

4 3. 4 2. で「満足していない」と答えた人は、その理由を具体的に記入して下さい。

理由 ()

4 4. キャリアセンターからの情報提供や来室時の相談対応、実施している課外講座等に満足していますか？

1)満足している 2)まあまあ満足している 3)普通 4)あまり満足していない 5)満足していない

4 5. あなたの職業観にもっともよくあてはまると思われる項目を、以下の選択肢の中から一つ選んで回答してください。

- 1) 収入が少なくても興味を持てる仕事より、興味が持てなくても収入の多い仕事を選びたい
- 2) 収入や知名度などよりも、自らの興味・関心を優先して職業を選びたい
- 3) 収入や知名度などよりも、社会への貢献性を重視して職業を選びたい
- 4) どんな職業に就くかよりも、どこで働くか(勤務地)を優先したい
- 5) 大学で学んだことを生かせる職業を選びたい
- 6) やりたい仕事が見つかるまでは就職をしなくてもよい

4 6. 卒業後の進路について考えていますか？

1)考えている 2)考えていない

4 7. 4 6. で「考えている」と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください。

1)就職 2)大学院への進学 3)海外の大学、語学学校への留学 4)その他

4 8. 受講している授業(予習・復習を含む)以外で、資格取得など将来に備えた自主的な学習(例:漢字能力検定)の時間は週にどれくらいですか。

1)30分未満 2)30分以上～1時間未満 3)1時間以上～2時間未満 4)2時間以上～3時間未満 5)3時間以上～4時間未満 6)4時間以上

II. 学習について

以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答え
てください。

4 9. あなたが授業科目を選択するとき、重視することは何ですか。(2つ以内で選んでください)

- ①学問的な興味 ②課題の量の多少 ③単位の取りやすさ ④成績のつけ方(出席、試験・レポート等)
- ⑤時間割の都合 ⑥将来の仕事に役に立つか ⑦授業のやり方、教え方

5 0. 授業時間外で学修中に授業の内容で分からないところが出てきた場合には、どのように解決していますか(主な理由を1つ選んでください)。

①教員に直接質問する ②友人に質問して教えてもらう ③自分で調べる ④わからないままにしておく

5 1. あなたが履修登録した授業に出席しなくなる理由は何ですか（2つ以内で選んでください）。

①授業のレベル ②授業の雰囲気 ③体調不良 ④アルバイト ⑤寝坊 ⑥特に理由なし

⑦欠席等せずにきちんと履修した

5 2. 学生生活と学習について感じる事があれば、以下の記述欄に自由に書いてください

学内において、ここをこのように改善したらもっと良くなると思う点がありましたら書いてください。
皆さんのご意見をお聞かせください。

2014年度学生意識調査データ

大学全体

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計). Columns represent questions and rows represent responses with counts and percentages.

1年生全体

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計). Columns represent questions and rows represent responses with counts and percentages.

1年生女子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計). Columns represent questions and rows represent responses with counts and percentages.

1年生男子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計). Columns represent questions and rows represent responses with counts and percentages.

2年生全体

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

2年生女子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

2年生男子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

3年生全体

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

3年生女子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

3年生男子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

4年生全体

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

4年生女子

Table with 51 columns (設問1-51) and 11 rows (回答1-10, 回答合計, 回答1%-10%).

4年生男子

Table with columns for question numbers (設問1-10) and answer counts (1-51). Rows include individual question counts and percentages, and a summary row (回答合計).

日本人全体

Table with columns for question numbers (設問1-10) and answer counts (1-51). Rows include individual question counts and percentages, and a summary row (回答合計).

留学生全体

Table with columns for question numbers (設問1-10) and answer counts (1-51). Rows include individual question counts and percentages, and a summary row (回答合計).